Key words● 実践力，地域の力を高める，地域間格差

「地域の力を高める」
－専門分野（糖尿病）における臨床実践能力の高い看護師育成強化事業研修を担当して考えること－

東北大学宮城地域医療支援寄附講座　糖尿病看護認定看護師　日本糖尿病療養指導士　由浪有希子

平成 18 年，厚生労働省は「専門分野（がん・糖尿病）における臨床実践能力の高い看護師の育成強化推進事業」を開始した．宮城県は，平成 19 年～ 21 年その事業を委託され，東北大学病院，東北厚生年金病院（平成 21 年のみ）の 2 施設で臨床実務研修を行った．

3 年間で計 16 名の宮城県内の病院に勤務する看護師が受講した．年齢は 30 ～ 40 歳代，糖尿病看護経験が 5 年以上，施設では主任や副看護師長，またはリーダーシップがとれる指導的な立場にある看護師で，日本糖尿病療養指導士（CDEJ）有資格者は 7 名であった．

研修の概要

日本糖尿病教育・看護学会特別委員会が作成した研修プログラムをもとに糖尿病の最新の知識と看護の講義，1 週間の血糖自己測定とインスリン注射の模擬体験とフットケア技術の演習，病棟・外来での臨地実習であった．研修期間は 40 日間で，研修修了時に事例報告会を行い宮城県知事から修了証とけやきの葉をモチーフにしたバッジを交付した．本研修の指導は，糖尿病看護認定看護師が担当した．

本研修の成果

臨地実習では，一人の患者を受け持ち療養指導の場面をプロセスレコードに記載し，振り返りを行った．指導者からアドバイスや受講生同士のカンファレンスで意見交換を行う中で，「糖尿病患者に対する先入観」や「自分中心の一方的な指導」をしていたことなどに気づき，自分を客観視する機会となった．受講生にとって少々苦悩の体験であったが，互いに「できているところを認める」「他者の考えや意見を聞き自分との違いを理解する」ということから相手を認め理解する姿勢が養われるとともに患者理解が深まっていった．その結果，患者の話を聴き，生活背景を理解した支援が実践できるようになった．これが受講生にとって大きな自信となった．

その他，糖尿病教室の企画，実施，評価の方法を学び，糖尿病療養指導のシステムやフットケア外来の見学を行った．実習施設の糖尿病療養指導システムの見学は，自施設の糖尿病療養指導の体制の構築や見直しをする機会となった．

研修修了後は，積極的に療養支援に取り組み，勉強会の開催，他職種間の連携の促進，院内の糖尿病療養指導体制の構築，フットケア外来立ち上げなど糖尿病医療チームの活動の牽引役となっていた．

本研修は，糖尿病看護，療養指導に必要な知識，技術，理論を統合して活用していくことを学び実践力を向上させる場となった．本研修受講生一人ひとりの実践力向上は，チーム医療の質の向上に影響し，患者の血糖コントロール，生活習慣の改善，合併症重症化予防に貢献し，地域の力を高めていくと考えられる．

地域の現状と今後の課題

宮城県の糖尿病専門医は仙台市およびその周辺に集中し，それに伴い CDEJ も同様の傾向にある．糖尿病専門医不在の地域では，糖尿病患者の支援は十分できておらず，地域間格差が生じているのが現状である．それゆえ，地域の病院には，糖尿病療養指導に対して臨床実践能力の高い看護師が求められている．本研修を修了した受講生のように施設内でリーダーシップを発揮し，各職種の CDEJ や地域との連携体制を築き活動することで，糖尿病療養指導の地域間格差を是正し提供するケアの質の均霑化が図られると考える．今後は，CDEJ の活動状況，地域の糖尿病看護の現況や看護職のニーズを把握し，地域の看護師の実践力向上，ケアの質の均霑化に貢献できる研修を実施できるよう宮城県及び宮城県看護協会，糖尿病対策推進会議に働きかけていくことを課題としたい．

参考文献

特集 地域が連携して行う看護の質の向上．看護管理 Vol13,No9,2009,Aug p734-761.